

村歴通信 第廿六號

「昔にあった旅館」のこと(其之弐)

(今回も敬称は省略しております。ご容赦ください)

温泉街に壮然と立ち並ぶ旅館群。

160年前くらいになると、中心街ですえ全く違った様相でした。

・ 山口屋旅館

時期：室町後期(1600年頃)～明治44年

廃業理由：不明

場所：現・お宿 大穀屋

人別：原 甚太郎

備考：江戸時代、新庄藩代表力士「花車(紅葉山)」を輩出した。藩主御前試合、庄内藩力士との一番では、「鷲の喰い投(噛み付き)」で勝利し、行事の初代・木村庄之助から軍配を拝領したという。戊辰戦争では、長南熊蔵・斉藤佐次兵衛と共に鉄砲手をした。



・ 朝日屋旅館

時期：江戸時代～明治29年

廃業理由：商店へ商売替え

場所：横山仁右衛門商店

人別：横山 仁右衛門

備考：商店に商売替えしたのは、日清戦争帰りの横山仁吉が、旅館女将の母親が病気で失明したため、商店に鞍替えした。もともと、玄関横に小さな「見世(店)」を持っていた模様。バイタリティがあり、葡萄酒製造販売をしたり、木地工場を作って木地製品を製造販売したりと、商売の手を広げた。



・ 高島屋旅館

時期：江戸時代～昭和中期

廃業理由：不明

場所：三浦屋・旧福本屋の間

人別：高山 久蔵

備考：元石抱八人衆の一、高山武右衛門分家の一、古参旅館のシンボルであったクモガタ(雲形)が、ここだけ透かし彫りで物凄い芸術的。今のところ、私に判っているのはこれだけです。



・ 柿崎治兵衛旅館(名前不明)

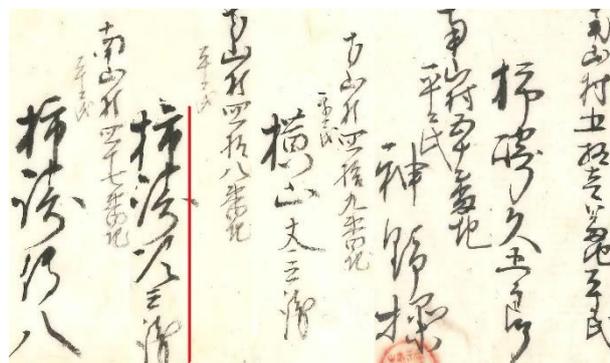
時期：江戸時代？～明治 15 年？

廃業理由：不明

場所：現・西本屋・急びす屋周辺

人別：柿崎治兵衛

備考：正直、殆ど判っていません。明治 13 年の旅宿規定名簿を旧番地順に並べると、47 番柿崎伝八、49 番横山太兵衛(現西本屋)の間に、柿崎治兵衛がある(既報 19 号に詳細)そして、明治 18 年の名簿には居なくなっているのです。



・ 新地・大正楼(後の禁山館)

時期：大正元年～平成 25 年

廃業理由：当主死亡

場所：葉山館

人別：三原 半三郎別家

備考：大正元年、三原半三郎の別荘として建てられた。斜面に建っているために 4 階層に見えるが、実質木造 3 階建てである。残っていれば文化財確定であった。

